赤川浩爾先生から学んだこと

M⑰　粟井　清

赤川先生といえば、なぜか、私は白衣姿の先生を想い出します。先生の白衣を着たそのお姿は、軽快で颯爽としておられ、とても爽やかな印象でした。赤川研の持つ明るさ、のびのびと活気に満ちた雰囲気に惹かれ、赤川研、通称六講座を選びました。研究テーマの二相流、ツーフェーズフローという、初めて耳にする響きのよい言葉も魅力的でした。阪大石谷研との研究交流会も楽しく、いろんな刺激を受けました。先生から受けた、実験への取り組み方は、その後社会人として今日まで、私の生き方に大きな影響を及ぼしています。それは、先入観にとらわれずに、あるがままに受け入れる、ことです。実験結果を議論するときに、先生は、私のやり方を疑うことなく、その結果をとらえて、あざやかにその解釈を提案されます。その後、私のやり方が間違えていたことがわかり、正反対の結果を先生に報告したときも、なんら私を咎めることなく、また鮮やかに新しい解釈をされます。先ず疑うことから進めるやり方もありますが、先生からは、人を信じ、あるがままに受け入れていくやり方を学びました。先ず信じること、そのことによって、お互いのほどよい緊張感も生まれていくこともわかってきました。その後社会人になってから、このやり方が、ひとを大きく成長させていくこともたくさん経験しました。先生から学んだ、先入観にとらわれずにあるがままに受け入れる、このことを大切に、残されたいのちをしっかりと生きていきます。

赤川先生、本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りします。

（ 終 ）

追悼文受付日：平成 28 年（2016 年）4 月 4 日　赤川先生－21